

くしまっ子

悲願の全国大会出場を勝ち取り、いざ、夢舞台へ



チームメイトとともに全国大会での初勝利を目指します

全国で有終の美を飾りたい!

「春の高校バレー」として行われる「第70回全日本バレーボール高校選手権」に出場する女子の都城商業高校。北方出身の津曲夏希さんが、エースとしてチームを引っ張っています。

中学3年のときに観戦した春高バレー県予選の決勝で、都城商業が優勝したのを見て「全国を目指したい」と同校を選びました。待っていたのは厳しい練習。「きつかった」と振り返るように、バレー漬けの3年間を送っ

最後の大会でようやく全国への切符をつかんだ津曲さん。「支えてくれた人々への感謝の気持ち忘れず、バレー人生の中で一番いい試合にしたい」と来年1月の夢舞台に向け、決意を新たにしました。

これまで全国大会の経験はなく、昨年の春高予選はレギュラーとして出場したものの、決勝で敗れ全国の切符は掴めませんでした。「全国に行くのは簡単じゃない」。味わった悔しさをバネに、この1年必死で練習に打ち込んできました。

「やってきたことを全部出し切る」と挑んだ県予選決勝は、フルセットまでもつれる大接戦。1対1で迎えた第3セットは、7対1から逆転し流れを引き寄せました。「自分にも言い聞かせている言葉は強気。劣勢の場面でも気持ちで負けなかったことが逆転につながった」と念願の全国出場に笑顔を見せます。



08.津曲 夏希さん

都城商業高校3年生。北方出身。小学2年生で北方少女バレーに入団し、バレーボールを始める。ポジションはレフト。ケガによる2度の手術を乗り越え、初の全国大会出場を果たす。



カナリヤ会の皆さん

声の広報 届け続けて26年

声に想いを込めて

作業は、広報くしまが発行される月初めに打ち合わせをし、ページの分担を決めます。事前に下読みや漢字の確認を入念に行い、収録に臨みます。ひとりご机に置かれたマイクに向かい、記事を読み上げ、ひとりごその声を録音。そして、読み上げられた文章を数人で聴きながら、同時に校正をしていきます。読み間違えがあれば、ストップさせ、またやり直しをしながら約4時間かけて90分の「声のお便り」を完成させます。今はカセットテープよりCDの

視覚障がいなどで、広報くしまを読むことが困難な方に、「声の広報」を無料で届けている音声ボランティア「カナリヤ会」。広報くしまを読み上げて収録するカセットテープ「声のお便り」を毎月発行しています。

第1号を発行した平成3年7月から現在まで毎月発行を続け、昨年7月には節目の300号に到達。そして今年、この長年のボランティア活動が評価され、文部科学大臣表彰を受賞しました。平成元年に行われた朗読講習会をきっかけに結成されたカナリヤ会は25年以上も活動を続け、現在メンバーは12人。中には、会の創設から活動を続けているメンバーもいます。

時代ですが、利用者のほとんどは高齢者。CDは使い慣れないとの声が多いため、あえてカセットテープで発送しているそうです。「目の不自由な方にとって、音声は情報を得る大切な手段。聞きやすいテープ作りに努めないといいません」と話すのは代表の山下佳子さん。音声訳はただ読むだけでなく、文章を正しく理解し、文字情報を音にする技術が必要です。スピードや間合い、アクセントなどに気を配りながら、聞き手に配慮して収録を行います。

「少しでも聞きやすいテープを届けたい」との思いからももちろん勉強も欠かしません。月に1度は音声訳指導員の先生を宮崎から招き、指導を受けています。

現在、「声のお便り」の配布は視覚障害者の方をはじめ、福祉施設や図書館など12カ所。高齢化に伴い、人数も年々減りつつありますが、それでも「目の不自由な方が情報弱者にならないように、代わりの目となって情報をお届けするのが私たちの役目。声のお便りを楽しみに待っていてくれる人がいる以上は、これからも続けていきたい」とカナリヤ会の皆さん。この声を待っている人たちのために、聞きやすい「声の広報」を目指して日々頑張っています。



収録は数人がかりで



事前準備は入念に行います



打ち合わせの様子



串間の人な人こんな人

People

ピープル

串間で活躍する人を紹介します

きらめき図鑑

kirameki

地域おこし協力隊

活動日記

vol.8 朝から絶叫!!

ふくしま あやの 福島 綾乃さん



ある日、自宅に帰ると猫がすり寄ってきました。いつも以上に散らかった部屋。きつと留守の間に猫が運動会を開催したのでしょうか。リビングにはどこから出したのかわからないラバーの切れ端なんかがあったので掃除をしました。

めっきり冷え込む今日この頃。朝「あと

5分だけ]のつもりが結構過ぎてしまいがちです。次の朝も急いで準備し、昨夜取り込んでずぼらをしたままになっていた靴下を履きました。すると、つま先に妙な異変が。靴下を脱いでみると…。

「ぎゃー———!!」

なんとヤモリが出てきたのです。なぜ靴下の中に?! 目の前で起きていることが理解できず叫びまくりました。でもよく見るとヤモリの様子がどこか変なんです。私のつま先に圧迫されたよりも相当な弱り方をしていて、なぜか傷だらけになっていました。おまけに尻尾がない。

「もしかして」

昨日仕事から帰ってリビングにあった

ラバーの切れ端のことを思い出しました。「昨日のリビングに落ちていたラバーの切れ端って、実はヤモリの尻尾だったんじゃない?!」。部屋の散らかり方やヤモリの姿やラバーの切れ端を思い出すと相当うちの猫と乱闘を繰り広げ、夜の間に何とかして逃げ込んだのが私の靴下だったと思えば腑に落ちる。

自然豊かなところで生活するとこんなことがあるのか。恐々つまんで勝手口から裏山へ逃がしました。ヤモリに申し訳ないなと思いつつも、つま先の感覚が妙に忘れられない私は真っ青な顔をして出勤しました。